

# JIA 長野県クラブ 28

社団法人 日本建築家協会

1997. 10. 1



▲▼ 第1回あすなる巡回展



▲▼ J I A 設立10周年記念大会



## 建築家に期待されていること

副会長  
関 邦 則

複雑な日常の仕事に忙殺されていても、私たちに何を期待されているのかとふと思いつく瞬間がある。それには二通りあって、一つは私個人に期待されていることであり、もう一つは建築家という立場に期待されていることである。個人への期待に対しては持てる能力を活用すればよいが、建築家という職能に対する期待に対しても仕事のみでなく地域に根差した様々な活動を通して応えていかなければならない。建築のもつ公共性ゆえにクライアントだけでなく社会や市民、行政からの期待も大きくなっている。景観問題、環境問題、福祉問題、まちづくり、再開発等についても発言や協力を求められる。しかし一方で果たして建築家や設計事務所は社会の信頼を勝ち得ているのかと思うこともある。「クライアントの希望を無視して他人のお金で奇抜なデザインをして得意がっている変わった人種」等と相変わらず思われているのではないかと。私たちにあってクライアントに誠実に応えることが中心課題であるが、与えられた活動の機会の中で更に広い期待にも応えていかなければならない。知識や経験、独創的なアイデア、持久力も必要になる。ボランティア精神もリーダーシップもなければならぬ。そうした期待に押しつぶされないように頑張りたいものです。



## 自分自身にQandA

監 査  
櫻 井 武 久

J I Aが発足してはや10年。我々が長野県クラブも発足時の目標に向かって先輩の方々の努力により実績を残しながら発展している。私たちにあって長野県クラブとは？自分自身にQ&Aしてみた。

Q 1 入会のきっかけは？

A 建築家という言葉にあこがれていたし、自分の仕事を理解してくれる人に出会ったから。

Q 2 現在はどう感じているか？

A 今自分がしている事、考えている事が建築家の責務という概念に一致し、会員の方々も皆同じ事に悩み、楽しんでいる事を知り、よかったと思う。

Q 3 J I Aへの希望は？

A 建築家協会の知名度が低すぎて建築業界から離れると、まったく存在していない感じがさみしい。他の業界の建物を設計したり、環境問題や各種保護問題等で他の団体と接する機会を利用し、もっとJ I Aのことを知ってもらいたい。

Q 4 J I Aを知ってもらおうように努力しているか？

A 会う人に建築論を話し、「J I Aの人達は皆こうしているよ」と語っている。

(Q 5 ~ Q 10省略)

自分自身にQ&Aしてみたら、J I Aの会員として後めたさを感じた。自分の人生テーマ「建築楽習、ますます頑張らなくては、」

## 北信



### 私と家族の住まい

小宮山 直樹  
小宮山建築計画事務所

私が現在住んでいる家はかなり古く傷みがひどくなった。2～3年前から「いつか新しい家造ろう」と考えていた。自宅を計画することはとても楽しい作業だが、時には難儀することもある。

ひとつは予算という金銭的なもの。もうひとつは、建主は私だけではないということ。この二つのことは工事進行中のいまでも監理者として、また、第一番目の建主としてとても重要なものととられている。

住宅ならばそこに住む人々、商業施設ならばそこに勤める人々やそこに出入りする人々、社屋なら社長だけでなくそこに勤務する全ての人々が、建主若しくは建主と同等の人間として考える。このことは、人にやさしい建築を実現させる為にとっても大切なことと信じている。

しかし、今回は自分の家。それだけにわがままになり、自分がこうしたいからこうするんだという欲望が高まってしまう。私自身にとってはとても良いこと（ある意味では都合の良いこと）なのだが、何かを犠牲にしているのではないかと思う節もある。

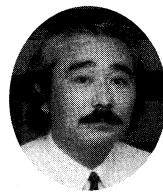
それは、第2、第3の建主である妻や母の気持。基本プランを決定する時は一応説明して了解を得た。でもまだ本当は納得していないのか、はたまた理解していないのか分からないが、「物入れっていくつあってもいいのよね」とか「結構いらぬ物があるからしまうところが必要なのよね」という言葉が聞かれる。

私自身そのことは予測して収納場所は多く確保したつもりである。いらぬ物ならしまっておかないで捨てたらどうだと言いたくもなるが、それを言ったら設計者として家族から認めてもらえないような気がして恐ろしくて言えない。彼女たちの言ういらぬ物とは本当にいらぬ物ではなく、「今はとりあえずいらぬ物」のこのようだ。

外観についても「どう？」と聞くと、「できみないと分からない」という返事だった。そこで模型を作ることにしたのだが、作っている最中の彼女たちの言葉は「楽しそうだね」だった。みんなにわかってもらおうと作っているのにと内心思ったが、本当に楽しかったので何も言えなかった。

そうこうしているうちに工事も進み、瓦が葺き終わり、現在内部の造作工事が進んでいる。最近はおとなしくしている彼女達もいつ何を言うかわからない。きっと引越した後も何か言うものと確信している。そうした「生の声」を聞けるのはとてもありがたいが、「私も建主なんだ」と言いたい。

## 東信



### 東京スタイル

中澤 栄二  
㈱エービーシー一級建築士事務所

景観、街並という言葉が流行っている。しかしそれを理解（意識）しているか否か差がありすぎる。

現場で、塗装の打ち合わせ中に、施主の要望があった。「東京風な、東京の街に合う様な色にして欲しい」と言う。「エ！建つ場所は信州の田舎なんだけど」と思いながら「わかりました」とつい口から出てしまった。しかたがないので、いつもはあまり使用しないビビットな色も使ってみたら、「いいですね、東京スタイルですね」と、御施主様が喜んでくれた。内心穏やかではなかったが、「ありがとうございます」と答えてしまった。

また、ある時は、隣とは違う色にして欲しいと要望される。好き嫌いでなく、とりあえず違う色と言われる。「良い色合いで、街並にマッチしているときは、同じ色合いにすると、隣も自分のところの様にみえますよ」と、説得する。(2/3程度は理解してくれる)

看板でも同じ様なことがあった。隣より大きく、派手にしてくれと要望がでるが、派手な町並みに派手が埋まってしまう目立たない。さらに派手な街並になり、一刻も早く通り過ぎたい気分になってしまう。大きさ、かたち、色、高さ等を統一して、落ちつきのある町並みにできないだろうか。

店舗等は自己主張として目立つ必要もあるが、住まいはその場所にとけ込み、違和感のないかたち、色彩にすることが大切だと考える。しかし、なかなか理解していただけない。

外観は個人のものであっても個人のものではない。「まわりに影響を与えるので、地域の物という意識が大切だ」とだれかがいっていたが、その通りである。

東京の型、東京の色合い、さらに建築家までも東京の建築家でないとダメだと思っている方が多く、仕事をしていた残念な時がある。東京スタイルが多くなり、全国共通仕様で変わりばえない町並みが多すぎる。

私の様に、つい口から「わかりました」と言うのではなく、良きふるさつをつくるため施主を説得する事も私達の大切な仕事だと思うが、なかなかうまく説得できない自分の未熟さを反省している毎日である。

## 中 信



### 背景としての建築の内面性

齋藤 治  
(有)齋藤建築デザイン室

先日、会員の羽生田八郎さんの友人でもある桜田晴義氏の絵画展を見る機会があったが、その細密画は誠にすばらしいものだった。氏の説明によるとむしろ背景に時間をかけており、その背景にこそ自己の内面性を表現しているという。

では建築にとって背景としての内面性とは何かを考えてみた。それはやはり、建築でいうと空間性ということではないか。建築の主役はそれを利用する人間であり、建築そのものは背景である。その背景としての空間が建築性であり、そこに込めたものが建築家にとっての内面を語るものである。

最近の建築雑誌をみても、構成のうまさやきれいさを感じることはあるが、空間の奥深さや内面性を感じるものは少ない。かつて、白井晟一の佐世保の親和銀行本店を見学させてもらった時に感じたあの静謐な空間の奥深い何ともいえない感覚は未だに忘れられない。現代の建築ももっと内面性を持っていかないと本当に良い建築は生まれてこないと思う。

今建築はどちらかというと機能的にならざるを得ない面も多い。その建築に内面性を持たせることはなかなか難しい。そんな中で、実際の設計においては、少しでも気持ちを込めるように努力している。現在はその積重ねの中でしか表現できていないような気もする。

最近、住宅の設計に際しては、「ナチュラルティ」ということを意識している。それは施主にとっての自然とは何かを考えることから始まる。要望を聞きとり、それをまとめる時の考え方として、ただ快適だということだけでなく意識の拡がりのある空間を大切にすることを提案したい。もちろん、自然素材を使うことにも意識している。住宅の健康性も大事だと思う。また、自分自身の表現としても素直であることもナチュラルティとしてとらえている。

今、このような時代だからこそ、このようなことをキーとして、いつか背景として、本当に内面性を表現できた建築を実現したい。

## 賛助会



### 建築は素晴らしい

赤塩 政広  
(株)本久

私も建築業界（外壁工事）に入って10数年になります。建築主の依頼で設計し、建設会社で工事を請負い、私も工事業者が施工をするその間に、いったいどれだけの人達が関連しているかを考えると大変な業界であると感じて感心します。設計事務所では「建築」を大切に、施工元請は図面を忠実に立体に仕上げ、工事業者は持っているノウハウを価格と仕上げに最大の努力をします。

最近の経済状況は建築業界でも大きな波をかぶろうとしています。これからも厳しい状況は続くと思いますが、関連会社の創意と熱い情熱で21世紀に向けて努力したいと思っています。空いていた地面に皆の汗の結晶で建物が出来た時、だれもが見て振り返らざるをえない様な建物を皆さんと一緒にこれからも是非造りたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。



### 安さだけでなく

駒村 征男  
ヤマキ工業(株)

当社は建築の金属外装（屋根・形鋼カーテンウォール・金属パネル）を製作施工しています。御多分に洩れず、この気候と同じ厳しい環境の中で過させていただきます。一品一品をより良い品で、安く、早くと日々暑い汗を流しているわけです。

さて、最近感じていることなのですが、建築生産機構の中で、安いということに重点を置くところがあるように思えます。安いというのは良いことなのですが、そこその品質のものが採用される可能性があります。手造り製品を世に送り出している業者にとっては、コストダウンにも限界があり、苦戦している状況です。社会の強い要請で生み出される建築物には、やはりそれだけのステータスと、美しい意匠が永く保たれ、愛され続けられねばならないと思います。当社も今後、安くて良い品をと考え続けますが、「ある程度のコストは計上としていただきたいなあ」などと考えています。

## クラブインサイド

### 第3回幹事会

片倉隆幸

7月18日開催。会員入退会の承認のほか、本年度事業スケジュールを検討し決定した。また、委員会の構成について再確認し事業計画を決定。事務所会員と賛助会員増強も検討した。仮称「信州建築家カタログ」については具体的な内容の詰めを委員会で検討し進める。「賛助会員メーカーリスト」の改訂については会員カードを8月末に会員へ発送、9月に回収し、12月発行を予定。

### 第2回交流委員会

高橋重徳

8月25日開催。名称は事務所会員・賛助会員コミュニケーションファイルとする。具体的な内容、実施方法、また予算についても検討を行った。カード制作は自費として頂くと共に、コミュニケーションファイルは有料(3000円程度/一冊)としたい。費用負担については、会員のご理解を頂くことに努め、ご協力をお願いする。

### 第2回建築家カタログ作成検討委員会

倉橋英太郎

9月3日開催。信州の風土に育まれた建築家、会員80人の作品を集めて1冊の本にしようと思立って3年余り。先に行ったアンケートで方向性も固まってきましたが、ここへきて経済的な課題等から内容の再検討の声も出ています。何とか早い時期に刊行できるようにしたいと思っています。

### 第3回会員委員会

松下重雄

8月29日開催。会員委員会のメンバー増強については、8名を選出し幹事会に諮る。事業計画に挙げられている「建築見学会」については、今秋中に小さな規模で実施する旨を理事会に諮る。「あすなる巡回展」の反省会ではいろいろな角度から有意義な意見が続出。

### 第1回事業委員会

片倉隆幸

9月3日開催。文化講演会の内容と講師について話し合った。第6回は「地方の建築家の役割について」と題し、針生承一氏 本間利雄氏を候補に交渉し、講演会とディスカッションを企画。新年会と同時に1月に長野市で開催予定。

### 第4回幹事会

土屋長命

9月3日、サンルート松本で開催。会員入会3社が報告され承認された。今年度中にさらなる追加加入を目標に努力する。委員会構成の変更が報告され承認される。事務所会員・賛助会員コミュニケーションファイル作成の最終報告があり、いよいよカード作成が始まる。JIA 10周年記念大会への正会員の参加が少ないため要請がある。次回は11月5日に開催する。

## あすなる巡回展

松下重雄

毎年、総会に併催していた学生卒業設計コンクールと会員作品展の合同巡回を目的にした「あすなる巡回展」は6月5日、長野市を振り出しに、飯田市、松本市、上田市と4地区を巡り6月30日、大過なく終了できた。

各地で会員、賛助会員はじめ多くの皆さんに支えられ悲喜こもごもの物語が展開された。準備不足、情報発信不足、会場や費用、管理体制などに膨大な反省点を残したが、来場者が「建築って素敵ですね!」と熱いエールを贈ってくれた。皆さん御苦労様でした。

## クラブアウトサイド

### JIA設立10周年記念大会

須田考雄

9月22日～24日の3日間にわたり、東京国際フォーラムでJIA設立10周年記念大会とアルカシアフォーラム9が開催された。テーマは『多重文化と建築—包容力のある社会をめざして』。オープニングセレモニーは高円宮殿下妃殿下をお迎えし、UIA会長、アルカシア議長、アルカシア14ヶ国の建築家協会会長、JIA会員等多数が参加。佐々木群大会実行委員長、穂積信夫会長、来賓挨拶に続き、JIA新人賞に「白鷺の家」で坂本昭、「紙の教会」で坂茂、「太田総合病院付属老人保健施設・桔梗」で渡部和生の3氏が受賞。新設の日本建築家協会25年賞では「香川県文化会館」が選ばれ、香川県知事、大江宏建築事務所、大林組の3者が表彰された。基調講演(シンポジウム)は、鈴木博之モデレーターとニコラス・グリムショー、テイ・ケンスーン、安藤忠雄の4氏で行なわれた。2日目は、6のテーマフォーラム、15のプロフェッショナルワークショップ、3部に分かれてのアルカシアフォーラム9、30代建築家による100人会議等が開催された。最終日は、見学会が実施された。

### — 新入会員紹介 —

事務所会員

(株)エービーシー一級建築士事務所(上田市)

(有)アイ設計(駒ヶ根市)

賛助会員

(株)トダニ(飯田市)

長野ピース(株)(長野市)



JIA長野県クラブ

編集人 関 邦則

発行人 出澤 潔

発行所 JIA長野県クラブ

長野市大字南長野字  
宮東426-1

長野県建築士会館内

TEL 026(232)3897

FAX 026(232)5303

作成 新建新聞社